

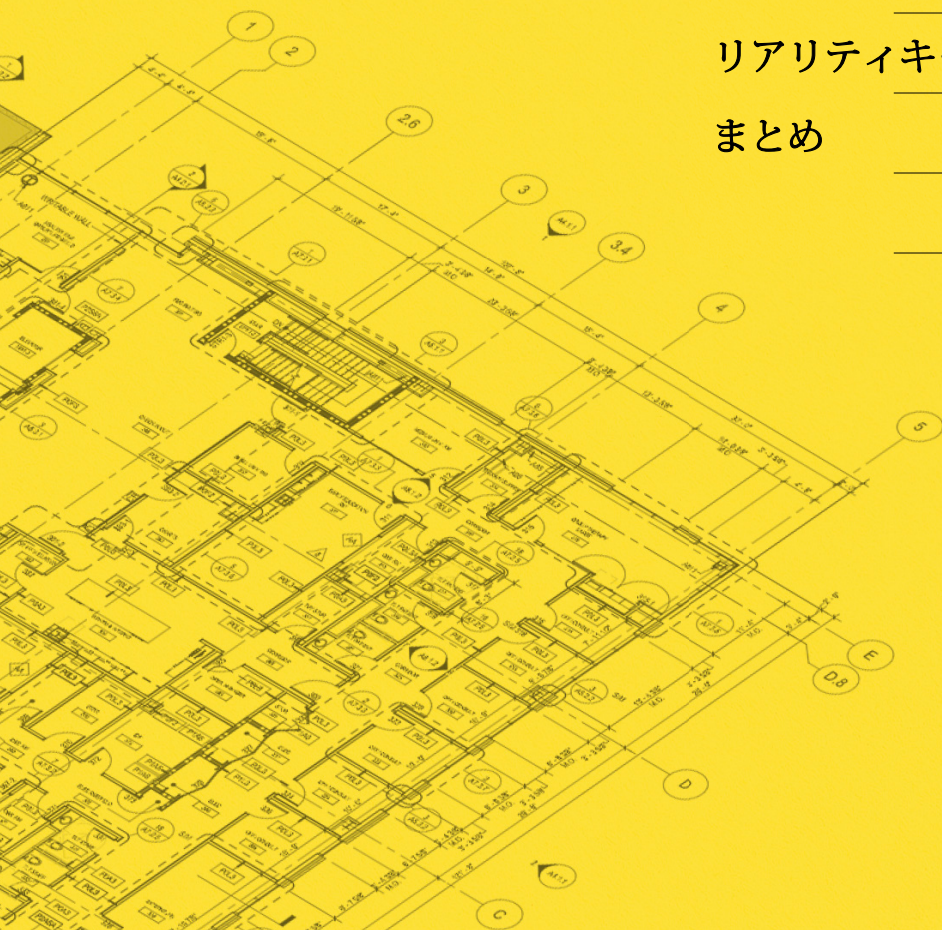


# リアリティキャプチャ の"ROI"価値を知る

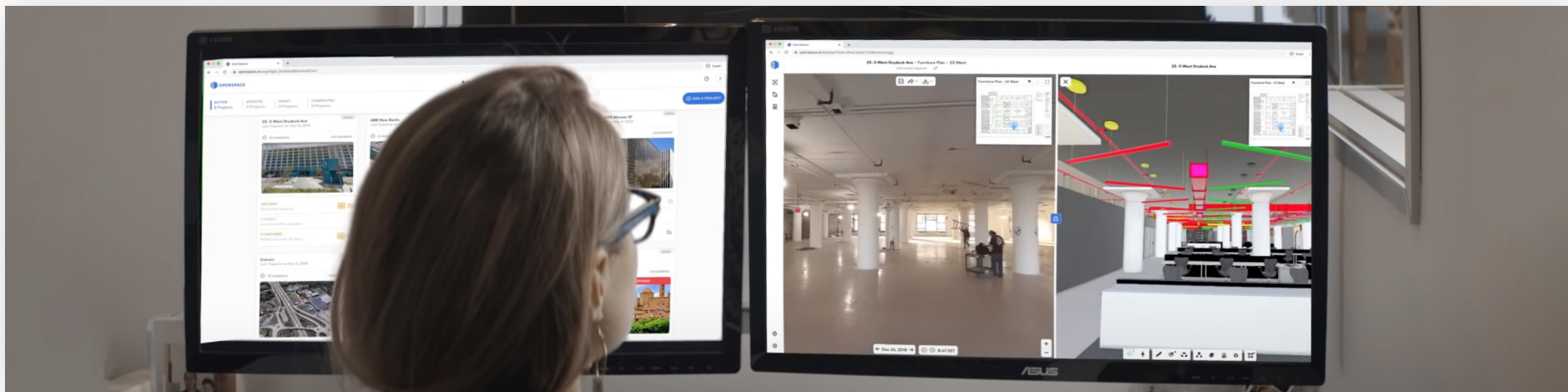
建築業者のビジネスにもたらす効果  
を理解する

# 目次

はじめに	3
リアリティキャプチャによる経費削減効果	4
リアリティキャプチャが作業効率を高める理由	6
リアリティキャプチャによる高収益の達成	11
リアリティキャプチャを使用した場合の予測投資利益率 (ROI) の算出	13
まとめ	14



## はじめに



OpenSpaceにより、世界中どこからでもいつでも、最新の現場状況を簡単に把握できるようになる。

テクノロジーの進化により建設業は劇的に変化を遂げています。次々に現れる新しいテクノロジーサービスとプラットフォームに対応するのは気が遠くなるような作業かもしれませんが、それらを上手く導入すれば、建築業者にとっては競合他社と差別化できる絶好のチャンスとなります。

建設工事のプロセスに変革をもたらすテクノロジーのひとつが「リアリティキャプチャ (reality capture)」です。リアリティキャプチャは、工事現場ごとに高解像度の360°画像デジタル記録を生成する、クラウドベースのソフトウェアソリューションです。360°画像は一般に、安全ヘルメットに装着したカメラを用いて現場を歩きながら撮影します。リアリティキャプチャは、新型コロナウイルス感染症の拡大期に世界各地の建設現場に登場し、最も急速に成長してきた技術です。

このパンデミックは確かに、リアリティキャプチャの導入が進んだ理由のひとつになりましたが、プロジェクトチームにとってこの技術の重要さは高まる一方であり、現在では多くの企業が建設のあらゆる段階でリアリティキャプチャからメリットを得るに至っています。

OpenSpaceは、リアリティキャプチャの分野でトップクラスの企業です。その製品には、建設現場を迅速かつ簡単に文書に記録するOpenSpace Captureや、現場の進捗状況を自動定量化するOpenSpace Trackなどがあります。このホワイトペーパーでは、これらの製品がもたらす経済効果を分析し、建築業者が、自社内でリアリティキャプチャを使用することによる財務面への潜在的な影響を評価し、リスクを低減しつつより効率的に作業するメリットを定量化するためのフレームワークを提供します。

新しい技術の導入には常に、コスト、メリット、リスクが伴います。OpenSpaceが業務効率や競争力に与える潜在的な効果を貴社が評価するうえでの助けとなるように、これから様々な業界のお客様の事例と直接いただいたご意見を紹介いたします。また、巻末には適切なソリューションをお選びいただくためのチェックリストと、100%カスタマイズ可能なROI算出ツールへのリンクを記載しております。これらのツールはどのようなお客様にも、リアリティキャプチャソリューションを正しく評価できるツールとしてご利用いただけます。

## リアリティキャプチャによる 経費削減効果

建築業者はリアリティキャプチャを利用することで、著しく建築プロセスを改善し、ワークフローを簡素化することができます。これにより、コストは大幅に削減されます。多くの事例において、全社的にすべてのプロジェクトにわたってお客様のコスト削減を支援するような相乗効果が見られます。さらに大手の建築業者の場合には、こうしたコスト削減効果は直ちに現れます。

ここでは、文書化に時短効果をもたらすOpenSpaceの主な導入事例を紹介します。

### 遠く離れた現場への出張回数を減らし、時間とコストの削減を実現する

お客様がプロジェクトにリアリティキャプチャを利用すると、建設現場のチームとオフィスのチーム双方がモバイル機器やPCを使って、世界中どこからでも一目で最新の現場状況を確認することができます。



OpenSpaceにより、週次の会議での意思決定スピードが向上する。

現場にバーチャルにアクセスできるため、すべてのチームメンバーには、現場に足を運んで最新状況を目視し、問題に気づき、作業の完了を検証する必要がもはやなくなります。現場までの距離やプロジェクトの種類によって違いはあるものの、当社が意見を伺ったお客様は多くの場合、出張回数を最大50%削減できました。会社にとっては大幅なコスト削減ができるうえ、個々の従業員も出張に要していた時間を、重要な作業に集中して使えるようになります。

### OAC（オーナー・建築士・元請業者）会議や調整会議での認証や意思決定を加速させる

ボタンを1回クリックするだけで撮影できる360°画像により、会議の生産性が向上します。複数のチームが、画面上で一緒に課題を見て確認し、

決定を下し、重要なステークホルダーから速やかに承認を得ることができます。さらに、リアリティキャプチャを使うとOAC会議や週次の調整会議をバーチャルで開催したり、物理的に現場に立ち会えないステークホルダーと現場状況を容易に共有したりすることもできます。現場への出張予定が不要となれば、承認にかかる時間が1週間以上早めることができます。例えば、画面上の360°画像に基づき、オーナーは変更命令を承認し、建築士は情報提供依頼書（RFI）に迅速に回答できるようになります。

## 破壊調査と手戻りを回避する

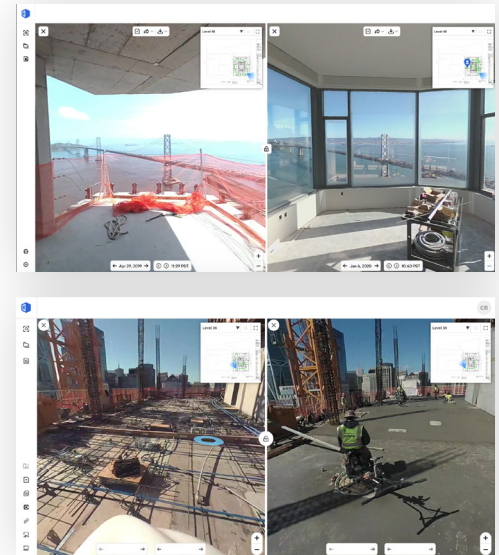
同様に、リアリティキャプチャソリューションを使用することで、チームは完成した壁や天井をもう一度開けざるを得なくなる状況に直面する可能性が低くなります。既存の工事に穴を開けて「壁の後ろ」がどうなっているかを確認する代わりに、（OpenSpaceのような）リアリティキャプチャのプラットフォームや、Autodesk Construction Cloud、Procore、PlanGridなどの統合プロジェクト管理プラットフォームで直接、そのエリアの以前の記録画像を簡単に確認することができます。当社が意見を伺ったチームは、リアリティキャプチャのこうした機能のおかげで、数千ドルもの追加費用がかかりかねない破壊調査を回避することができ、その代わりに画面上で迅速に問題箇所を検証することができ、工期が遅れることなく工事を進められたとコメントしています。

...



「OpenSpaceは、シートロックの背後やコンクリート下にあるあらゆる事柄を記録する“生きた文書”です」

Kitchell Construction社、プロジェクトディレクター、  
Mike Fitch氏



指定日に完成した工事を検証し、OpenSpaceリアリティキャプチャの撮影画像を使って、検証内容を現在の現場状況と比較する。

## リアリティキャプチャを使用して、保険費用を節約する

リアリティキャプチャの使用により可視性が高まると、保険費用も節約できます。現場のデジタル記録が各建設段階で完全に残されていることで、保険業者にとって重要な透明性と記録文書がこれまでにないかたちで得られるからです。プレコンストラクションからプロジェクトの引き渡しに至るまで、Shepherdなどの保険業者はOpenSpaceのユーザーに対し、このテクノロジー使用状況に基づいて年間の保険料の割引を提供しています。OpenSpaceの使用により、保険請求が簡略化されることを知っているからです。

## ケーススタディ



## Power Design社、視察出張費を50%削減

全米で数千人の作業員を擁し、23州以上で様々なプロジェクトを手掛けるPower Design社は、簡単に利用できる現場記録ツールを必要としていました。また同社は出張費も極力削減したいと考えていました。3か所の現場にOpenSpaceを導入、その後経営幹部や現場スタッフの承認を得て全社に展開しました。

現在では、OpenSpaceによってPower Design社のオフサイトチームがバーチャル視察できるようになったことで、複数の従業員が定期的に出張する無駄を削減しています。西海岸地域のあるプロジェクトマネージャーは、米国を横断する出張視察を50%削減しました。



「OpenSpaceはタイムマシンだと思っています。あらゆる理由で非常に大切な、当社が必要とする履歴情報はすべて、常に手元にあります」

Power Design社、ITフィールドマネージャー、Daves Vargas-Ballesteros氏

## リアリティキャプチャが作業効率を高める理由

OpenSpaceなどのリアリティキャプチャソリューションを使用するお客様は、新しい方法で作業を完成させ、作業効率を大幅に向上させています。建設現場の主要なプロセスの多くは、コミュニケーション、意思決定、紛争解決、問題解決を中心に展開しています。リアリティキャプチャは現場とオフィスのすべての人々に信頼できる情報をもたらすため、こうした利害関係のすべてに有効に機能します。当社が意見を伺ったお客様は、ほぼリアルタイムで現場状況にアクセスできることで、日ごとの作業効率が格段

できることで、日ごとの作業効率が格段に向上することを確認しています。



「OpenSpaceで時間を節約することで、現在では毎日、作業が進んでいるプロジェクトのエリアを文書化できます」

Novo Construction社、プロジェクトエンジニア、Tyler Rohde氏

...

## 文書化にかかる時間を短縮する

プロジェクトチームはこれまで、記録を目的として、また報告書、請求書、RFIの提出を支援するために、現場の各エリアで多くの写真を撮影しなければなりません。このような手作業は時間のかかる退屈な仕事で、チームメンバーが戦略的な責任を要する仕事に集中できなくなってしまう。



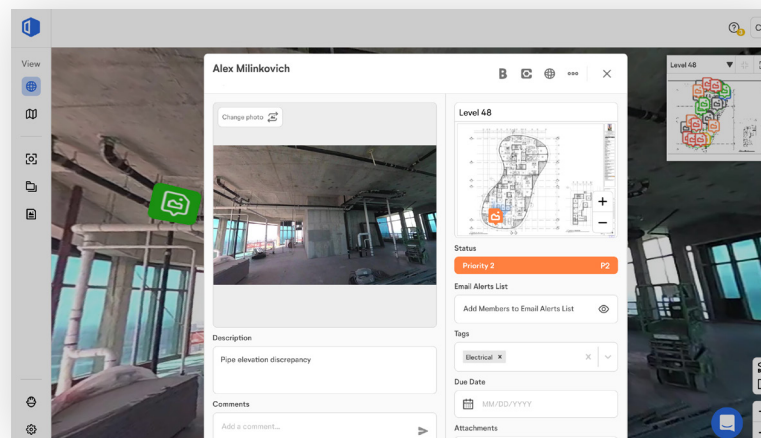
大規模なプロジェクトでは、チームメンバーは数時間あるいは一日中現場を歩いて撮影することもあります。さらには、その後日にも時間をかけて未分類の写真のすべてに目を通し、適切な画像を探さなければなりません（期待する望の画像が、その中に存在さえしない場合もあります）。現在では、リアリティキャプチャを使うことでそのような問題は解消されました。リアリティキャプチャにより360°画像が自動的に記録され、アップロードされ、平面図の正しい位置にピン留めされます。

## フィールドノートとRFIをよりスピーディに、簡単に作成

大半のプロジェクトチームはフィールドノートを使って課題を特定し、関係者に連絡しています。OpenSpaceなどのリアリティキャプチャソフトウェアを使えば、フィールドノートを簡単に作成して、わずか数クリック

...

で平面図の正しい位置にそれを貼り付けることができます。プロジェクトチームはField Notesの機能を使うことで、変更命令、RFI、品質保証など主要なプロセスを早められます。また、Field Notesを使って現場の特定エリアの2D画像を撮影し、正しい位置にピン留めしたり、他のチームメンバーをタグ付けして、即時の行動や返答を促せたりします。例えば、現場でパイプからの漏出を見つけたプロジェクトマネージャーは、モバイル機器で写真撮影し、フィールドノートを作成し、その場所にピン留めして、関係するチームメンバーをタグ付けできます。Field Notesを使いこなしているユーザーは変更命令やRFIの文書化を効率よく行うだけでなく、パンチリストの項目を整理し、建築士との連絡にも活用しています。OpenSpaceの技術を利用すれば、パンチリストを容易にエクスポートし、ステークホルダーと簡単に共有することができます。



Field Notesにより、現場の2D画像を平面図の特定の位置に貼り付けられる。またチームメンバーのタグ付けや、明細の追記もできる。

## ケーススタディ



## Commodore Construction 社、5～10倍の速さで フィールドノートを作成

ニューヨークに拠点を置く専門工事業者の

Commodore Construction社は、世界有数の建築会社と協働しています。同社はOpenSpace製品を6つのプロジェクトで展開していますが、その使いやすさから、現場チームはOpenSpaceの技術にすぐに取り入れました。Field Notesの機能が特に重宝されています。現場を歩き回って現場監督が撮影した写真は、平面図の正しい位置に自動的にピン留めされます。

それまで、フィールドノートの作成は一日仕事でしたが、現在は1週間のうち半日で済むようになりました。フィールドノートはわずか数クリックで報告書にまとめ、建築士や下請業者、プロジェクトのその他のステークホルダーに送付されるので、課題を迅速に解決できます。



「OpenSpaceの価値はすでに非常に高いのですが、これからもっと高まると感じています」

Commodore Construction社、シニアプロジェクトマネージャー、David Niewiadomski氏

### 強力な統合機能を利用して、作業効率を向上

トップレベルのリアリティキャプチャプラットフォームには、標準的なワークフローを支援する強力な統合機能があります。例えば、Procore、PlanGrid、Autodesk Construction Cloudなどの定評のあるプロジェクト管理ソフトウェアとOpenSpaceを統合すると、日々の作業を簡単に完了できます。Procoreのユーザーであれば、現場の360°画像をProcoreに直接、迅速に同期できるため、Procoreから離れずにプロジェクト平面図、画像キャプチャー、Field Notes、Admin Reportsを簡単に閲覧できます。また、Procore内のRFIやObservationに、視覚資料を添付し、詳細な位置を自動的に配置できるため、不明確さが低減し、複数のステークホルダー間で簡単に協力し合えるようになります。Autodesk Construction Cloudのユーザーであれば、ダッシュボードから直接、OpenSpaceが撮影した現場の画像を確認できます。またBIM 360やNavisworksモデルをOpenSpaceにアップロードして、OpenSpaceの360°画像と並べて確認することも可能です。RFIについては、OpenSpaceの統合機能を使うと、ボタンを1回クリックするだけで、平面図の位置や現状を記録したPDFを生成できます。





...

「10もの異なるプロジェクトを抱えるときがありました  
が、OpenSpaceを使って管理できました」

Boldt社、シニアVDCマネージャー、Scot Lauwasser氏

## Boldt社、スケジューリングの遅延を20%削減

ウィスコンシン州アップルトンに拠点を置き、130年の歴史を有する総合建設業のBoldt社は、イリノイ州の10,000平方フィート（約930平方メートル）規模の外来患者向け診療所に、OpenSpaceを使用しました。OpenSpaceが記録した360°画像が自動的にプロジェクト平面図にマッピングされるため、プロジェクトチームは課題を簡単に特定し、早急に解決することができました。

Boldt社のチームは、OpenSpaceは予定通りに工事を進め続けるために極めて有効であり、OpenSpace導入後、遅延が20%削減されたと報告しています。

## スケジューリングにかかる時間を短縮し、効率的に作業員を配置する

OpenSpaceなどのリアリティキャプチャソリューションを使うと、工事の進捗状況がより明確になり、作業員の配置をより効率的に計画できます。毎日の始業前や終業後に、現場監督が完了した工事を確認し、必要に応じてスケジュールを変更します。例えば、所定の場所のフレーミング工事が予定より早く完了したら、乾式壁施工業者に、その場所の工事にすぐに着手するよう依頼できます。

## ケーススタディ

# BOLDT

## Boldt社、スケジューリングの遅延を20%削減

ウィスコンシン州アップルトンに拠点を置き、130年の歴史を有する総合建設業のBoldt社は、イリノイ州の10,000平方フィート（約930平方メートル）規模の外来患者向け診療所に、OpenSpaceを使用しました。OpenSpaceが記録した360°画像が自動的にプロジェクト平面図にマッピングされるため、プロジェクトチームは課題を簡単に特定し、早急に解決することができました。

Boldt社のチームは、OpenSpaceは予定通りに工事を進め続けるために極めて有効であり、OpenSpace導入後、遅延が20%削減されたと報告しています

一般に、スケジュールが遅延すると莫大なコストがかかることになるため、スケジュールの効率化は、プロジェクト単体であっても数万ドルの節約につながります。また、OpenSpace Trackも併用すれば、プロジェクトチームは工事進捗率（percent complete）、施工量（quantity installed）、作業量の検証も可能です。



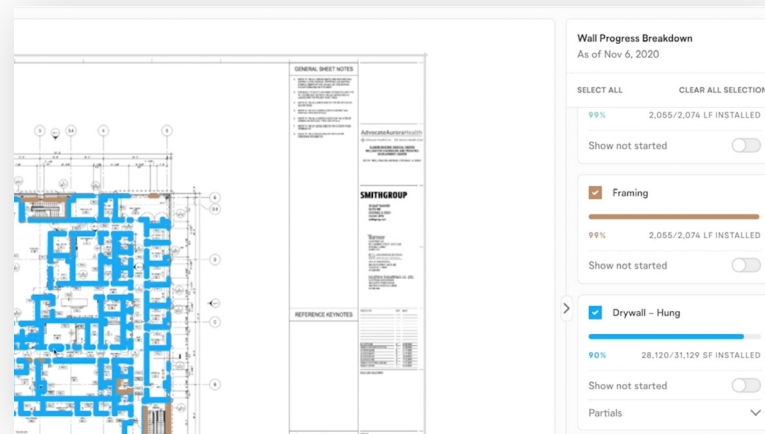
「OpenSpaceがなければ、数週間後に現場に行くまで、現場で起こっていた問題を確認できなかったかもしれません。あるいは問題にまったく気づかなかったかもしれません」

Provident General Contractors社、フィールドオペレーションディレクター、Andrew Gibson氏

...

## プレコンストラクションと入札の効率を向上させる

プロジェクト開始時にリアリティキャプチャソフトウェアを使うと、見積り担当者は、施工業者に直接現場視察を依頼する代わりに、これらの業者とリモートで連絡が取れるため、プレコンストラクションと入札プロセスの効率が向上します。各施工業者はOpenSpaceなどのプラットフォームで360°画像を使って、リモートで現場状況を明確に確認し、質問することができます。このようにコミュニケーションの可能性が拡大することで、チームはプレコンストラクションのプロセスを早められるだけでなく、高い精度の見積額で入札に参加できます。お客様の中には、OpenSpaceなどの最新テクノロジーを活用して新事業を獲得したケースもありました。これらのケースについては後段で詳しく紹介します。



OpenSpace Trackは、壁、天井、ドア、機械、コンクリートなどの予想完成率など、現場の進捗状況の可視性をこれまでになく高める。

## 離れたところにいる安全チームによる、品質保証（QA）・品質管理（QC）の効率を向上

OpenSpaceのようなリアリティキャプチャソリューションを使うと、あらゆる業務が簡単になります。現場の最新状況など、デジタル化された現場のあらゆる記録が手元にあるプロジェクトチームは、安全点検の実施、安全レポートの提出、完成した工事のQA/QCをより簡単に行えます。安全責任者やQCマネージャーは、現場に出張して直接プロジェクトの各エリアを歩き回る代わりに、OpenSpaceプラットフォームで特定の場所に目を通し、360°画像を利用することで点検作業を行うことができます。これは作業が迅速化されるだけでなく、遠隔作業を可能とするため、優れた作業員の離職を防ぐ優れたツールとなります。

## パンチリストと引き渡しパッケージ作成の効率向上

プロジェクト最終段階では、リアリティキャプチャを使うと、設備管理

チームへのパンチリストとプロジェクトの引渡書を容易に作成することができます。OpenSpaceのField Notesをパンチリスト作成プロセスに統合し、オーナーや建築士による最終承認前に対処が必要なパンチリストの各項目について、フィールドノートをデジタルで作成しているユーザーもいます。このような問題は、すべてデジタル化して1か所に集約し、平面図上の特定の位置にマッピングすることで簡単かつ迅速に対処できます。360°画像を使うと、時間を節約しながら、一般的なものよりも包括的で高度な最終報告書一式をまとめることができます。プロジェクトチームは設備管理チームへ建築物の完全なデジタルツインを引き渡せるため、作業が簡便になります。例えば、建築物が利用に供されると、壁の後ろに何かがあるか知っておかないと答えられない問い合わせが来ることもあります。その場合、設備管理チームは、OpenSpace上で正確な位置をすぐに突き止め、その場所に何が据え付けられているか確認できます。



「テナントのメカニカルエンジニア、構造エンジニア、建築士にとって、空間とそこが工事中、どのように見えていたかについて永久的な記録を保持することは、信じられないほど有益です。記憶や数枚の2D写真を当てにしなくてすむのですから」

Tishman Speyer社、デザイン&建設ディレクター、Eleftherios Pittas氏

## リアリティキャプチャによる高収益の達成

リアリティキャプチャ技術の重要なメリットは、これ以外にもあります。建築業者が毎年多くの事業を獲得し、多くのプロジェクトを完了できるようになるということです。その理由は、リアリティキャプチャを使用しているチームは、予定通りにプロジェクトを完成させる場合が多く、またオーナーは、予算内で時間を短縮しながら工事するために最良のツールを活用していることを証明できる請負業者を採用する傾向があるためです。

### リアリティキャプチャを使ってプロジェクトの獲得数を増やす

OpenSpaceを使う多くの建設チームが、「オーナーとデベロッパーが総合建設業者にリアリティキャプチャ技術の利用を依頼するケースが増えており、私たちはすでにそれを活用しているため多くのプロジェクトを獲得しています」と言っています。とりたてて使用を求めない場合でも、OpenSpaceの利用に関連した落札が増えていることに、オーナーは注目しています。例えば、建築業者兼オーナーであるTishman Speyer社のEleftherios Pittas氏は、こうした傾向が明白であることを認めています。同氏は、「OpenSpace Captureを使って現場を確認しなおすと、引き渡しの際の空間状況に関わる紛争を避けられます」とコメントしています。

...

...



...

「私たちは極端に厳しいスケジュールに直面していましたが、OpenSpaceを使うことでプロジェクトパートナーと共に工事を管理でき、プロジェクトを予定通りに進められました」

Suffolk 社、現場監督補佐、Max Sanchez氏

## プロジェクトを迅速に完了させる

リアリティキャプチャの技術を使うと、組織全体で、また、工事のあらゆる段階で、効率向上のための新たな可能性が多く開かれるため、OpenSpaceを活用するチームはそうでないチームよりも迅速にプロジェクトを完成させています。これは、次の工事に速やかに着手できることを意味します。Suffolk Construction社は、マイアミのホテルプロジェクトで資材搬入が12週間遅れていたにもかかわらず、リアリティキャプチャ技術により作業効率が向上し、予定通りそのプロジェクトを完了できました。プロジェクトの現場監督補佐だったMax Sanchez氏は、「私たちは極端に厳しいスケジュールに直面していましたが、OpenSpaceを使うことでプロジェクトパートナーと共に工事を管理でき、プロジェクトを予定通りに進められました」と語っています。

建築業者はリアリティキャプチャ技術を利用してプロジェクトチームの作業効率向上、完成期限順守、遅延防止を支援することで、優れた成果物を引き渡すだけでなく、建築業者自身が新たなプロジェクトに取り組む時間を得て、収益を増やしています。

## ケーススタディ

### SUFFOLK

## Suffolk社、10週間短縮して予定通りに工事を完了

Suffolk Construction社は、フロリダで53階建てのホテルを建設していましたが、ブラジルからウィンドウウォールシステムが予定通りに届かず、プロジェクトは危機的状況にありました。ウィンドウの取り付け完成までに要する10週間という時間が、プロジェクトの納期に影響を及ぼすおそれがありました。しかし、プロジェクトチームはOpenSpaceを使用することで、ウィンドウウォール設置の進捗状況を子細に監視することができ、すべてのプロジェクトを予定通りに進められました。

現場監督補佐のMax Sanchez氏はOpenSpaceを使って品質管理面の問題にフラグを立て、BIMを竣工図と比較し、リモートで調整しました。毎日、Sanchez氏は最新のOpenSpaceデータを引き出し、プロジェクトパートナーと共に確認するようにしました。その結果、遅延を生じさせる前に問題を確認、対処することができ、最終的にSuffolk社はそのプロジェクトを予定通り完成させました。

## 適正なソリューションを選択する

リアリティキャプチャの経済的効果を理解することに加え、お客様が現在お使いのツールやワークフローと連動する強力で、信頼できる技術を選ぶことも大切です。以下のような機能を提供してくれるソリューションを探しましょう。

- スタッフが容易に導入でき、既存のワークフロー内で使用できるユーザーフレンドリーなツール
- 平面図に自動的にピン留めされる360° 画像を使った、総合的な現場記録
- 数分以内にチームが360° 画像を利用できる画像処理速度
- より良い意思決定を促す効果的な分析と知見
- 現場エリアとBIMを比較し、2つの点を並べて時差なく比較できる画面分割表示機能
- いつでもあらゆる場所から、すべてのステークホルダーが利用可能なプラットフォーム内の画像やプロジェクトに、メモやアクションアイテム、完成期限を追加できる機能
- 貴社のプロジェクト管理プラットフォームとの統合
- ステークホルダーと関連情報を共有するために簡単に作成できる報告書

## リアリティキャプチャを使用した場合の予測投資利益率（ROI）の算出

ここまで、リアリティキャプチャ技術を使うことによる、業務上の効率向上やコスト削減の例をいくつも紹介してきました（これらの例は、可能な導入例の、ほんの一部に過ぎません）。手作業による記録作業に代わり、貴社がOpenSpaceなどのリアリティキャプチャ技術を導入する場合のメリットや潜在的効果を評価するにあたり、できる限り予測投資利益率を定量化することが重要であると、私たちは承知しています。

リアリティキャプチャソリューションのコストを精査する際には、現在の経費の調査から始めてください。手作業による記録作業（または使い勝手が悪く導入されない技術や、思い通りに機能しない技術）は、実際には高くつくことがお分かりになるでしょう。リアリティキャプチャソフトウェアの価格は、プロジェクト現場の規模や、ソフトウェアの種類、必要とする機能、または、画像撮影頻度に応じて判断される場合もあります。

OpenSpaceは、貴社が必要とする製品と進行中の建設工事の金額に基づいて価格を算出しています。例えば、1,000万ドル（約13億円）規模のプロジェクトへのOpenSpaceのサブスクリプション価格は一般に、年間5,000ドル（約66万円）からとなります。OpenSpaceの価格は、短時間の修理プロジェクトから数年に及ぶメガプロジェクトあるいはグローバルなポートフォリオまで、貴社の事業に合わせてあらゆるプロジェクトに対応しています。つまり、ある種の技術とは異なり、リアリティキャプチャはあらゆる規模のチームやプロジェクトに対応できるのです。

## OpenSpaceのROI算出ツール

リアリティキャプチャ技術を複数の部門や機能に導入した場合にどの程度コスト削減と時間の短縮を達成できるかを確認するのに役立つ、ROI算出ツールを紹介いたします。各項目に貴社の数値を入力していただければ、リアリティキャプチャソフトウェアを実装した場合の予想投資利益率が、自動的に算出されます。準備ができたなら次のステップに進んでいただけますので、弊社にお問い合わせください。

### まとめ

現場への新技術の導入には課題が伴う一方で、リアリティキャプチャを受け入れた建築業者に競争優位性があることは明らかです。このホワイトペーパーでは、リアリティキャプチャソフトウェアが、貴社のプロジェクトや最終損益に大きな経済効果をもたらす可能性があることを示してきました。最新技術を導入すれば、リソースを有効に割り当てられようになるだけでなく、新しい事業を獲得することも可能です。

さらに、最も成功しているのは、建設のあらゆる段階でリアリティキャプチャを利用するチームであり、毎年より多くのプロジェクトを完成させ、収益増を達成していることが分かっています。貴社が、この技術の実装後に経費を削減し、作業効率を向上させる方法を数多く特定できるように、これまで有用な枠組みを提示してきました。リアリティキャプチャをプロセスに統合すれば、貴社のチームの生産性が高まり、予定通り予算内でプロジェクトを完成できるようになるのです。

Describe Your Business			
Number of projects	3	per year	
Average construction cost	\$15,000,000	per project	
Tier 1 pay rate (Laborer, Field Engineer, Asst. Super, Project Admin, APM)	\$50	per hour	
Tier 2 pay rate (Superintendent, PM, QC, Safety Manager)	\$125	per hour	
Tier 3 pay rate (Project Executive, VP, Senior Manager)	\$150	per hour	
<b>Calculations for per-year estimates</b>			
	36	weeks	
	252	days	
Calculate Your Projected ROI			
Travel	Before	With OpenSpace	Estimated Value
<b>Expenses</b>			
Total number of visits to project per week	1	0.5	
Average cost per person per trip	\$1,293	\$1,293	
Number of projects	3	3	
<b>Estimated total travel costs per year</b>	<b>\$139,644</b>	<b>\$69,822</b>	<b>\$69,822</b>

OpenSpaceのROI算出ツールを使うと、コスト削減と時間短縮の可能性を簡単に算出できる。



「どのケースにOpenSpaceを導入するかは、弊社スタッフのイマジネーションにかかっています。これは、チームメンバー、下請業者、経営陣、顧客にとって常にかげがえがないものです」

EEI社、ビジネス・トランスフォーメーション部門シニアバイスプレジデント、Glenn Villasenor氏

...

## OpenSpaceについて

リアリティキャプチャおよびAI活用分析のグローバルリーダーであるOpenSpaceは、DXの推進と建設現場を360°デジタル画像記録する技術で、あらゆる規模の建設会社および不動産会社を支援しています。これまでにJLL、フジタ、パナソニック建設エンジニアリングといったお客様がOpenSpace技術を使い、91カ国以上にわたる数千の現場での建設プロジェクトから110億平方フィート（約10億2200万平方メートル）分の画像を記録し、作業効率化とリスク低減を実現しています。OpenSpaceについてさらに詳しくは、[www.openspace.ai/ja/](https://www.openspace.ai/ja/)をご覧ください。

## OpenSpaceを試すには

製品についてさらに詳しくお知りになりたい場合には、弊社ウェブサイトをご覧ください。OpenSpaceのデモのお申し込みは、こちらからお願いします。<https://www.openspace.ai/ja/get-a-demo/>いつでもお手伝いいたします。

